

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋三井ビルディング3F 電話03-6261-1000 第三版権登録済

WizBiz 月刊
ウイズビズ

がんばろう ニッポンの中小企業

3
2012 March



【特集】

魅力ある町をつくらう

地域活性化に尽力する人びと

特別企画

連携で可能になった 復興への動き

未来へ目を向ける

連載コラム

言わずにはいられない／さかもと未明
経済 時論・超論／山崎元
地域の元気をニッポンの元気に／木村俊昭

いま聞きたい！ 経営者の言葉

オフィス内田

内田勝規

地方だからこそ売れる極意

時代の潮流

危機管理が対応のカギ

正しいBCPのつくり方

●杉江防災

部分的耐震でコストを抑えたBCP

6つの緊急事態を想定して

建設会社や建物オーナーなどから依頼を受け、防災設備の設置やメンテナンスを行う杉江防災（滋賀県大津市）。
会社自身も防災のプロとして、普段から災害対策に余念がない。そんな同社が取り組む防災対策とは何か。
杉江和昭社長に話を聞いた。



杉江防災が設置・販売する防災用品の数々。消火器、誘導灯、非常警報機、備蓄非常食など、「普段からの備えやメンテナンスが大事」（杉江氏）

ちょっとした備えが大事

「実際に災害が起こると、ちょっとした備えのなさが業務が滞る会社が少ない」

そう警告するのは杉江防災の杉江和昭社長だ。同社は、防犯・防災設備の販売から設置工事、メンテナンスまで一手に行う。いわば、防災の入口から出口までを手掛ける防災のプロだ。

同社の商品が防災設備ということもあり、災害時にはさまざまなトラブルの連絡が入る。だがそれらは「普段からのメンテナンスで防げる範囲のものも多い」と杉江氏は言う。たとえば、「消火栓から水が出た放し」「火災報知機が鳴り止まない」「非常照明が点かなくなった」といった内容だ。災害そのものによる被害ではなく、メンテナンス不足が原因で、会社の業務が止まってしまうケースも

多いという。

「緊急事態に備え、対策を行っておけば、被害を最小限に食い止められ、災害後の復旧が早くなる」と杉江氏は指摘する。

6つの緊急事態に備える

では、具体的にはどのようなことを想定して、対策を施せばよいのだろうか。

東日本大震災を目の当たりにして、地震対策に力を入れる企業が増えてきている。だが企業が想定すべきは地震だけではない。杉江氏によると6つの緊急事態があるという。「地震」「火災」「感染症」「風水害」「設備事故」「不審者侵入・防犯」だ。

同社では、地震だけでなく、洪水などの風水害や大規模火災を想定して、ほとんどの社員がアマチュア無線を使えるようにしている。無線

危機管理が対応のカギ



杉江防災の杉江和昭社長。「ちょっとした禮物補強をするだけで被災後の復旧が早くなる」と語る



杉江防災が備える小型発電機。ミカン箱程度なので場所を取らない



杉江防災で販売している非常用トイレとテント。今後の地震対策として、企業からの注文が増えている

Company Profile

杉江防災
滋賀県大津市小野164-1
資本金 1000万円
従業員 6人
077-594-3004
http://sugiebousai.com/

杉江防災が提唱する6つの緊急事態

①地震

【対策】耐震補強、非常食・飲料水の備蓄

②火災

【対策】消防設備の設置（消火器、火災報知機、ガス漏れ警報機など）

③感染症

【対策】消毒液の常備、うがい・手洗い

④風水害

【対策】電気設備の配置を見直す、2階に仕事を設ける

⑤設備事故

【対策】機械のメンテナンス、設備の補強

⑥不審者侵入・防犯

【対策】インターホン、非常照明、防犯カメラの設置

▶ ちょっとした備えで被害を最小限に食い止めることができる

免許を取得し、自宅に無線機を装備しているのだ。
大規模災害時には、電話や携帯電話がつかず、メールも届きにくくなる。一般的な通信手段は麻痺してしまう。だが無線ならば通信可能なため、連絡が速やかに取れ、指示も滞ることがない。
また同社では、非常時のため小型発電機を購入して備えている。災害時には電力供給がストップすることも多い。そうした場合でも業務が止まらない配慮だ。同社ではこの発電機を車に搭載できるようにして、非常時の移動先での作業も可能にしている。
他にも「水害を想定して、メインの作業場を2階にしたり、サブの作業場を設けたり」といった対策も有効」と杉江氏は語る。

コストを抑えて地震対策

建物そのものを補強する耐震補強も欠かせない。だが資金的に余裕のある会社ならともかく、自社の建物全体を補強することは一般的に難しいだろう。

そこで考えて欲しいのが「中核事業を守るための部分的耐震補強だ」（杉江氏）。自社の主要業務を行ってある部屋だけを、重点的に補強したり、主要な設備だけはどんな状況でも稼働できるように補強工事を施したりするのだ。

中でも、必須なのが天井裏の配管だ。これらは見えないところにあるため注意が向きにくい。だが震災時には、配管が外れて落下したり、継ぎ目から排気ガスが漏れたりすることもある。

「空調ダクトなどが外れないように固定箇所を増やしたり、配管の継ぎ目を補強したりするだけで結果は大きく変わる」（杉江氏）。このような普段のちょっとしたメンテナンスが「いざ」というときの差を生むのだ。